

大阪ト協海コン部会 夜間パトロール継続 放置車両「常連」化

【大阪】大阪府トラック協会の海上コンテナ部会（山口与嗣雄部会長）は17日、役員会を開き、夜間放置車両の撲滅に向けた取り組みに引き続き力を入れて

いくことなどを確認した。5日に阪神港海上コンテナ協会（山口会長）と合同で行った夜間パトロールでは、計24台の放置車両を確認。舞洲、夢洲の両地区で合わせて15台が放置されていたことについて、出席者から「ターミナル周辺道路



「正直者が馬鹿を見ないよう、夜間パトを続けていかなければならない」といった声上がる

の夜間駐車禁止規制を求めるといった対応が必要」「常連」となっている事業者が見受けられる。正直者が馬鹿を見ないよう、夜間パトを続けていかなければならない」といった声が上がった。

また、10連休となるゴールデンウィーク期間中の大阪港の対応について報告。「連休明けの混雑が心配」「休日のゲートオープンは

ありがたいが、チャージが必要だ」とも述べた。本来、荷主が負担すべきコスト」などの意見のほか、6月の20カ国・地域（G20）首脳会議に伴う混雑を懸念する声も聞かれた。

山口部会長は「長年訴えていることだが、混雑しないターミナル運営が必要。長時間の待機をしないで済む運用をお願いしていきたい」と述べた。（小栗史和）